



開会式典（Speakerは主催の龚卫娟学院長、着席者左3人目は本学の北山学長）

揚州大学看護学院との共催による 「2019老年看護国際フォーラム」開催

2019年5月25、26日、中国の江蘇省揚州市のShangri-la Hotel揚州にて「2019老年看護国際フォーラム」(International Forum on Geriatric Nursing 2019)が開催された。フォーラムは揚州大学看護学院が主催、本学が共催で、参加者は米英や香港、韓国など10ヶ国と地域から多数の老年看護専門家が集まり、本学からも5名の大学教授が参加・発表した。フォーラムでは急速に進んでいる高齢化社会の直面する看護の課題について、現場からの豊富な経験をもとに各国の専門家たちが多視野から活発に議論し大変有意義なフォーラムとなった。また、閉会式で本学の北山学長が、来年は本学主催で「日中看護シンポジウム」の開催を計画していることを述べて、フォーラムを閉めた。

基礎医学・疾病学分野教授 喬 炎

平成30年度 卒業式・修了式

去る平成31年3月9日(土) 本学講堂にて、学部卒業式・大学院修了式が行われ、厳粛な雰囲気の中、学部卒業生79名、博士前期課程修了生2名、計81名ひとりひとりに学長から卒業証書、学位記が手渡されました。式終了後は、「卒業生を送る会」が開催され、ご来賓の皆様、ご家族、教職員、在校生とともに卒業生の門出を祝いました。



学長コーナー

学長の挨拶

昨今、日本国内外は政治経済社会の一大変革期を迎えています。変革の時代は意欲あるものにとってフロントランナーとなる絶好の機会でもあります。本学は、昨年6月に中国揚州大学看護学院と覚書(MOU)を締結し、8月にはサモア国立大学との17年間の交流をStep upすべく新たな覚書を締結しました。加えて、本年5月25、26日、Shangri-la Hotel揚州にて、揚州大学看護学院と共催で「2019老年看護国際フォーラム」(International Forum on Geriatric Nursing 2019)を開催しました。フォーラムには、米英、香港、韓国など10カ国余りと中国内の老年看護専門家総勢260名が集い、急速な高齢化社会に直面している各国の看護課題について議論を深めました。ご存知のように、2015年9月、国連はSDGs(持続可能な開発目標)を採択し、地球上の誰一人として取り残さない(leave no one behind)ことを誓っています。その主要な課題のひとつである「すべての人々に健康と福祉を」について、本学は特に中国・東南アジア諸国の20億の人々の健康と福祉の向上に貢献したいと考えています。昨年度から本学は「地域に学び、未来を拓く」を行動理念、「グローバル(Global)」と「チャレンジ(Challenge)」と「ケア力(Caring)」と「英知(Wisdom)」の4つを行動目標として掲げており、この激変の時代を自学を鍛え上げる好機と受け止めたいと思います。



「2019老年看護国際フォーラム」シンポジスト記念写真(2019.5.25)

今後も「Challenge to Change(変革への挑戦)」のスローガンのもと、本学の教育理念である「学生個々人のもつ可能性が最大限に開花すること」を目指し、オリジナリティとブランド力を高め、国内外から看護人材を引き寄せる個性豊かで魅力溢れる大学(Hub/Magnet College)づくりに取り組みたいと思います。

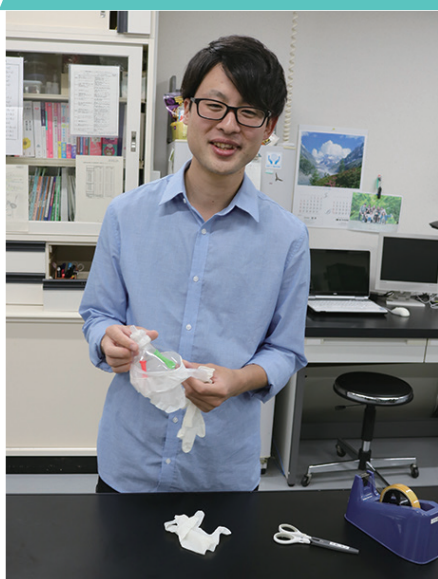
2019年吉日 学長 北山 秋雄

平成31年度 新入生紹介

今年度は、学部生85名、大学院博士前期課程5名、博士後期課程2名を迎えました。新入生からいただいたメッセージを紹介します。

青木 駿介さん

大学院看護学研究科博士前期課程 1 年生



私はちょうど10年前に看護師を目指すために本学看護学部に入學しました。そこから臨床経験を経て、看護職者、研究者としてスキルアップを目指すために本学の博士前期課程に進學し、現在講義を受けています。看護基礎科学分野を専攻し、看護に必要な科学知識の習得に関して、臨床での経験を活かしながら研究を進めていきたいと考えています。



越智 優花さん(写真右から2番目)
看護学部 1 年生

日下 笑里さん(写真右)
看護学部 1 年生

長野県看護大学に入学し、もうすでに3ヶ月が経とうとしています。たった3ヶ月の中でも授業や演習を通して、看護に関する沢山のことを学ぶことができ、充実感に溢れ、日々新鮮な気持ちで過ごしています。

愛知県から来た私にとって、違う環境で過ごすというのはとても不安でしたが、友達や先輩に支えられ、勉強や遊び、サークルなど様々なことを体験し、楽しく過ごすことが出来ています。卒業するまでの4年間、大変なこともたくさんあると思いますが、学友と共に頑張っていきたいと思っています。

長野県看護大学に入学して3ヶ月。ようやく新たな環境に慣れてきたとともに、看護学生として学ぶ学問すべてが私にとって新鮮で、看護の難しさと奥深さを実感しながら、日々多くのことを吸収しています。

さらに、勉強・寮生活・サークル・バイト…。今しかできないことも楽しんでいます。これから4年間、共に看護職を目指す仲間と切磋琢磨しながら、夢を叶えられるように努力していきたいです。



有賀 智也さん

大学院看護学研究科博士後期課程 1 年生

今年度、大学院博士後期課程に入学いたしました。仕事と学業の両立となり、忙しい日々が始まっています。多くの方と話し、意見を交える中で、看護研究に携わる者の一人として自分の力の無さを改めて痛感しています。まだまだ未熟であるため懸命に学んでいきたいと思っています。

平成30年度 国際看護実習報告

平成とともに<サモア国立大学との学生間交流事業>「国際看護実習」終了しました

サモア国立大学との国際看護実習はいよいよ最後となる平成30年度、3名が履修しました。訪問看護では、日本ではまず遭遇することのない状態の患者様の姿に戸惑いつつも「家族が出来ること、看護師がすべきことは？」とそれぞれが学んだことを整理し、いつか還元されることを期待しています。滞在中はかつての来日留学生や現地の方々からの多くの支援をいただきました。今後はサモア各地で活躍する元留学生や本学既卒実習生を中心に、学術的な交流に発展していくことを願っています。サモアからいただいたことを、私たちもどこかにお返りする。機会があればぜひ一緒に本学とサモアのために力を合わせましょう!!

前基礎看護学分野「国際看護実習」科目担当 宮越 幸代（現長野保健医療大学）

私にとって、初めての海外渡航がサモアでした。不安もたくさんありましたが、宿やサモア国立大学をはじめとしたお世話になったサモアの人々は、とても親切で、温かく接してくださり、それも思い出の1つです。サモアにおける看護を学ぶ中で、日本と比べると、看護師の役割の違いを感じました。例えば、サモアには養護教諭が存在しません。そのため、養護教諭に代わり、看護師が各学校を巡回し子ども達の健康診断を行っていました。よって、サモアの看護師はより広域的な知識・技術が必要な看護を行っていると思いました。



中島 菜美さん（看護学部4年生）（写真左から3番目）

サモアでの国際看護実習は私にとって貴重な経験になりました。まず、文化の違いによる看護の違いに驚きました。日本で当たり前のことが当たり前ではないのです。このことから相手の立場になり考える大切さを学びました。実習以外でもサモアの方々は私達に笑顔向け、優しく話しかけてくださいました。加えて綺麗な海や星が私のパワーになり実習を終える事ができました。支援して下さった皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。



柳澤 結衣さん（看護学部4年生）

私が1番印象に残った場面を紹介します。サモアのサバイイ島でコミュニティナースと一緒に地域に住むお宅をまわった時のことです。そこには乳がんの患者さんが床に横たわっていました。傷を覆っているガーゼなどを外すと、左胸から脇の下まで広範囲に腫瘍が拡がり、血が流れ出ている状態でした。なぜこのような重症な乳がんの患者さんが在宅にいるのでしょうか。日本では手術や抗がん剤治療を開始しているだろう。看護師さんになぜ彼女は病院ではなく家にいるのか尋ねると、発見した時にはもう遅すぎたとのことでした。

サモアと日本では病院のあり方、治療、医療制度、スピリットも異なります。私が、なんでなんだろうと思うことはサモアでは普通なのかもしれません。この実習では異文化の価値観について考え、私自身の看護観について考えることになりました。



大里 支乃さん（看護学部4年生）

平成30年度 第2回公開講座

去る2019年2月16日（土）、第2回公開講座を開催しました。今回は、本学の座馬耕一郎准教授が「チンパンジーに学ぶ睡眠文化」と題して講演し、112名という多くの皆様にご参加いただきました。座馬准教授は、東アフリカ・タンザニアのマハレ山塊国立公園で行った調査から、チンパンジーが毎日ベッドを作ることや睡眠の様子について説明するとともに、自らが商品化に携わった「人類進化ベッド®」を紹介しました。参加者からは、「貴重な研究の映像を見ることができて大変興味深い講義だった」、「また先生の話を知りたい」と高評価を得ました。

広報・交流委員（小児看護学分野講師 高橋 百合子）



チンパンジーのベッドを体験している座馬准教授

新任教職員紹介

今年度4月から6月に12名の新任教職員が着任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

代表して小原綾香助手の着任のメッセージを紹介します。

4月から発達看護学講座 小児看護学分野の助手になりました、小原綾香です。本学を3年前に卒業し、3年間小児科で看護師として働いていました。私自身、小児科看護師を目指したきっかけが小児看護実習でした。実習は大変さもありましたが、それ以上にやりがいや楽しさがありました。学生さんたちに少しでも小児看護の楽しさを伝えられ、小児科看護師を目指してくれる人が増えるといいなと思っています。これからよろしくお願いします。

小児看護学分野助手 小原 綾香



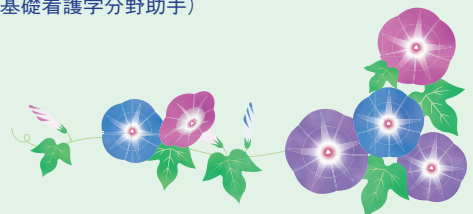
前列左から小原綾香（小児看護学分野助手）、高柳実希（母性・助産看護学分野助手）、西山由美子（総務課長補佐）、河内浩美（母性・助産看護学分野准教授）、五十嵐紗奈（総務課職員）、
後列左から伊藤理恵（教務・学生課主査）、米山武（事務局次長兼総務課長）、花岡秀樹（就職支援員）、望月経子（基礎看護学分野教授）



左が福嶋洋子
（精神看護学分野助手）
右が飯嶋勇貴
（基礎看護学分野助手）



吉岡詠美
（看護管理学・看護教育学分野講師）



フォト かんごだい

平成31年1月～令和元年6月



1月28日
平成30年度認定看護師教育課程修了式



2月2日
学生自治会4年生の国試を応援する会



2月19日
修士論文発表会



3月9日
平成30年度卒業式・修了式



3月9日
卒業生を送る会



3月20日
第15回長野県看護大学研究集会



4月2日
平成31年度入学式



4月3日
新入生オリエンテーション



5月16日
基礎看護方法I 演習風景



5月
新緑の大学キャンパス



6月8日
ふれあい花壇定植



6月13日
看護学概論 グループ発表

大学の活動紹介

実習FD・看護ユニフィケーション研修会



実習委員（老年看護学分野講師 細田 江美）

『看護学生を育てるための「つながり」と「つなぐ」を考える』をテーマに3月18日、蒲郡市立ソフィア看護専門学校の小林佐知子先生を講師にお招きして研修会を開催し、学内外から47名の参加がありました。講義・グループワークを通じ、実習指導者の学生へのかかわりとして1つの答えを求める「質問」ではなく、学生が意識していなかったことに気付くための「発問」が、主体的な学習姿勢につながることを改めて確認することができました。

ハラスメント防止研修会

ハラスメント防止委員長（哲学・倫理学分野准教授 屋良 朝彦）

本学では、毎年、教職員を対象にハラスメント防止研修会を行っています。誰でもハラスメントの被害者になり得るし、思いがけず加害者にもなり得ます。今回は、紛争調停や交渉学がご専門の鈴木有香先生（早稲田大学紛争交渉研究所招聘研究員）を講師に、「職場のコンフリクト パワーハラスメントを考える」というテーマで研修会を行いました。講師の実体験を交えつつ、ハラスメントのメカニズムおよびその対処法について学びました。



高齢者水中運動講座プロジェクト

プロジェクトリーダー（生物・化学分野教授 太田 克矢）



本学では65歳以上の方を対象とした教室を、各月の水曜日のうち3回ほど開催しています。教室内容は主に、健康運動指導士のもとで水中ウォーキングを60分程度行うものです。開催日の教室の前後は、参加者の皆さん同士の憩いの場ともなっている他、学生や本学教員たちとの世代間交流の場ともなっています。さらに毎年、忘年会や身体機能測定会も開催され、健康への意識向上だけでなく「笑顔」の絶えない教室です。



INFORMATION



2019年度 第1回公開講座

イグ・ノーベル賞と大腸癌

講師 堀内 朗 先生 昭和伊南総合病院 内科診療部長・消化器病センター長

日時 9月28日(土) 13:30～15:00(受付開始13:00)

会場 長野県看護大学 3階大講義室

第24回 鈴風祭

テーマ

「The beginning of a new era 新時代を切り開け」

日時 令和元年9月7日(土)、8日(日)
10:00～16:00



鈴風祭実行委員の皆さん
(前列右から3番目が実行委員長の篠崎和樹さん)

長野県看護大学大学院看護学研究科入学試験

令和2年度入試の募集人員・日程

1次試験

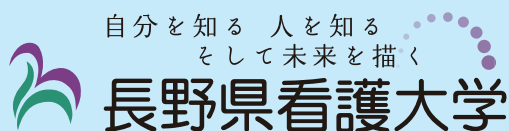
試験名	博士前期課程試験	博士後期課程試験
出願期間	令和元年9月26日(木)～10月3日(木)	
試験日	令和元年10月19日(土)	
試験科目	小論文・専門科目 ・面接	英語・口述試験
合格発表	令和元年10月25日(金)	

2次試験 (1次試験で定員に達しない場合に実施)

試験名	博士前期課程試験	博士後期課程試験
出願期間	令和2年1月6日(月)～1月14日(火)	
試験日	令和2年2月1日(土)	
試験科目	小論文・専門科目 ・面接	英語・口述試験
合格発表	令和2年2月6日(木)	

募集人員：前期課程16名、後期課程4名

専門学校・短期大学を卒業した方も、事前審査により出願できます



〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂1694 TEL 0265-81-5100 <http://www.nagano-nurs.ac.jp/>



長野県看護大学学報
No.48 (令和元年7月)

編集・発行
長野県看護大学広報・交流委員会

大学院だより

vol.7

■教員の研究紹介

国際看護学は異文化看護そのものであると言っても過言ではありません。世界各国、看護の形は1つではなく、普遍性の中において、看護はそれぞれの国の文化的背景に強く影響を受けながら独自の形として培われます。在日外国人が増える現在、国際看護学の位置づけは年々重要になってきており、いろいろな価値観やさまざまな文化的背景を持つ人々のニーズに沿った看護やケアを考える事が必要になってきていると思います。

これまでの8年間の国際協力の経験を土台に、様々な文化や歴史的背景の中で形成される看護の在り方や看護の概念形成をテーマに研究を行っています。また、現在、カンボジアの看護の質向上のために3年間取り組んできた活動手法を分析し、他の開発途上国の国々への発展性について検討を行っています。

望月 経子（基礎看護学分野教授）



■修了生紹介

「博士前期課程（修士）で学んで」

私は、2014年度に長期履修制度を利用し、精神看護専門看護師コースに入学しました。大学院での学びは、自分の考える力の未熟さと、表現することの難しさを痛感する日々でしたが、先生方の興味深い講義や修士生同士の議論など、わくわくする体験を通して自身の力になりました。

専門看護師の実習では、卓越した看護を実践している専門看護師にご指導を頂き、多面的な視点から看護ケアを実践し、多職種との調整能力、コミュニケーション力の高さを目の当たりにしました。これまで臨床現場で何気なく行っていた色々なことを、振り返り見直すことができた大変貴重な3か月間でした。

看護実践課題研究では「急性期状態にある統合失調症患者が隔離処遇中にたどった回復過程についての事例研究」に取り組みました。先生方には、誠実にデータと向き合い、対象の本質を捉え、考えを構築していくこと、丁寧に研究のプロ

セスをたどることの大切さを教えて頂きました。これまで自分が実践してきた看護を振り返り、精神科の治療と看護のプロセスを明らかにし、その意味を分析することを通じて、日々の臨床の中に課題を見つけることができました。

仕事と子育てと勉学のバランスをとることは大変でしたが、先生方、院生の仲間、家族に支えていただきました。

今後は、患者さんにとって何が一番なのか、看護師が今すべきことは何かを考え、臨床現場で、大学院での学びを生かしていきたいと思います。

大藏 真理さん

博士前期課程 平成30年度修了



■ 院生紹介①



研究室での嶋崎さん

「これ以上どうやって教えていいのかわからない。」私の大学院受験はここから始まりました。一念発起して受験を決意し無事合格したものの、無謀なチャレンジをしてしまったのではないかと不安も抱えていました。課題に追われ泣きそうになることもありますが、先生方の温かいご指導と励ましをうけ、何とか1年次の履修を終えることができました。また同期で入学した皆さんとのディスカッションや臨床現場のお話は大変参考になりました。同期の仲間は年齢も経験も様々で、私はその中でもかなり年上の方です。しかし年齢は全く関係なく意見を交わし、時には愚痴や弱音を言いながらともに学んできました。ともに学ぶ仲間のいるありがたさを痛感しています。同時に

学部の基礎看護学の科目も一部参加させていただきました。その体験の中から教育方法にばかり関心を奪われ、学生の多様な学びに注目できなかった自分に気づきました。そして研究疑問が徐々に絞られ、今は現代の看護教育において過渡期を迎えていると思われる技術教育に焦点を当てていこうと考えています。

嶋崎 昌子さん（大学院博士前期課程2年生）



基礎看護学演習に参加する嶋崎さん

■ 院生紹介②

私は、大学卒業後、看護師・保健師として働き経験を積むなかで、今後の自分の目指す看護とは何なのだろうと思い、看護を振り返り、自分自身の看護を見出したいと思い大学院へ進学しました。現在は、地域・在宅看護学分野で看護職間の連携に関する研究をしたいと思っています。大学院での授業では、「思考する」「表現する」ことの難しさを実感しつつ、研究の奥深さを知ると共に、自分自身の興味の広がりを感じています。先生方や仲間から多くの刺激を受けて、今後、研究を進めるなかで、今まで語られていない部分の看護を少しでも表現できればと思っています。

富田 美雪さん（大学院博士前期課程1年生）



看護倫理の授業にて



研究室での富田さん